

## R. イングルハート (R. Inglehart) の「世界価値観調査 (World Values Survey) データ」の二次的分析のための準備作業

真 鍋 一 史<sup>1)</sup>  
 栗 田 真 樹<sup>2)</sup>  
 劉 藤 志 明<sup>3)</sup>  
 加 藤 敬 子<sup>4)</sup>  
 李 鍾 煥<sup>5)</sup>

### I 共同作業の目的と意義

R. Inglehart による「世界価値観調査 (The World Values Survey)」の第2回調査は、1990年から93年にかけて、世界の43か国を対象に実施された。これらの対象国は、人口では広く世界のほぼ70%までを占め、また国民一人当たりの年間所得ではそれが300ドルにとどまる国から20,000ドルにもおよぶ国までの大きな幅を持ち、さらに資本主義、民主主義、社会主義、旧社会主義といった多様な政治・経済の形態を含むものとなっている。1981年から84年にかけての第1回調査に続く調査であるが——因みに、今年、第3回調査が開始された——、通時間的データとしては未だ限界を持つものであるにしても、やはりこの領域における現在利用可能な、大規模で、信頼性の高い横断的データ (cross-sectional data) のひとつである。「世界価値観調査データ」は、後述するように、さまざまな問題を残しているとはいえ、世論研究の領域にとどまらず、広く社会諸科学の領域における共通財産としてきわめて大きな価値を持つものといわなければならないのである。

さて、今回、この調査のデータを取り上げる問題関心は、「実証研究の紹介の仕方」と「調査データの公開の方向」というところにある。まず、前

者の側面については、われわれは、実証研究の紹介においては、個々の命題がどのような方法によって検証されたものであるかを、しっかりと調べていくことこそが重要であると考えている。そもそも、ある命題の定立は、その命題の検証の仕方と不可分のはずである。そこで、そのような方法から離れた「命題の一人歩き」を許すような研究紹介には、大きな危険が内在しているといわなければならない。ところが、R. Inglehart の研究については、『静かなる革命』(三宅一郎、金丸輝男、富沢克訳、東洋経済新報社、1978年)、『カルチャーシフトと政治変動』(村山皓、富沢克、武重雅文訳、東洋経済新報社、1993年)の二つの翻訳出版をはじめ、さまざまな紹介論文、あるいは随所での引用といった形で多様で広範な紹介活動にもかかわらず、そのデータ・セットの紹介やデータ解析の方法の解説といったことはほとんどなされてこなかった。

いうまでもなく、R. Inglehart の「世界価値観調査」は、単にさまざまな国における人びとのものの見方、考え方、感じ方の集合的分布を知ろうとする「記述志向型調査」ととどまるものではなく、基本的な社会変動の位相についての独自の理論から演繹的に導かれた仮説を検証しようとする「分析志向型調査」ということができる。では、その理論はどのようなものかということ、それは「A.

- 1) 関西学院大学社会学部教授
- 2) 吉備国際大学社会学部講師
- 3) 神戸大学大学院国際協力研究科助教授
- 4) 関西学院大学社会学部兼任講師
- 5) 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程前期課程

H. Maslow の欲求階層論、政治世代論、D. Bell の脱工業化社会論の三理論のユニークな統合にある」(三宅一郎『静かなる革命』東洋経済新報社、1978年、訳者あとがき)といわれる。Maslowによれば、人間の欲求は、生理欲求、安全欲求、帰属欲求、尊敬欲求、自己実現欲求からなり、この順序で低レベルから高レベルへと欲求の階層が形成されている。工業化以前の時代に欠乏と戦争を経験した世代が「物質と安全」に優先順位を置くのに対して、繁栄と平和の脱工業化の時代に育った世代は「帰属、尊敬そして自己実現」に優先順位を与える。Inglehart は前者を「物質主義的価値観」、後者を「脱物質主義的価値観」と呼び、さまざまな社会が脱工業化社会の段階に到達するにともなって、そのような社会における中心的価値観が「脱物質主義」の方向に向かうという仮説を展開したのである。これが『静かなる革命』から『カルチャーシフトと政治変動』へと引き継がれた問題関心であるといえる。ところが現在印刷中の新著『Modernization and Postmodernization』——真鍋は1995年4月から9月まで、ミシガン大学 ISR/CPS (Institute for Social Research/Center for Political Studies) において、Inglehart とこの新著をめぐる継続的な議論と、「世界価値観調査データ」の共同利用と二次的分析の方法についての検討を進める機会を持つことができた——において、Inglehart は「物質主義／脱物質主義」という価値観から、さらにも含めたもっと広い「Subjective Well-being」という世界観へと、その関心の焦点を拡大してきている。それは、じつは、つぎの図1と図2に示されるようなデータ解析の結果を踏まえてのことである。まず、図1は、43か国の調査データの因子分析の結果である。図に示されている47の変数は、あるものは一連の質問諸項目に対する回答を総合化したものであり、またあるものは一群の諸項目の中からそれらを最も代表するものとして選ばれた項目であるというように、大量の情報を凝縮したものである。また因子分析のための数値としては、各変数ごとにそれぞれの国の平均スコアが用いられている。因子分析の結果、Survival Values  $\longleftrightarrow$  Well-being Values と Traditional Authority  $\longleftrightarrow$  Rational-Legal Authority と

いう二つの因子(次元)が抽出されており、図中の縦横の目盛りはこれら二つの因子(次元)に対する各変数の因子負荷量(因子と変数との間の相関係数)を示している。第2因子が「近代化のプロセス」を反映した価値志向の軸であるのに対して、第1因子は「ポスト近代化のプロセス」に付随するそれであると考えられる。

つぎに、図2は、調査対象となった43のそれぞれの国が上述の二つの次元(軸)の上でどこに位置づけられるかを示したものである。それぞれの国の位置は、二つの次元に関して、各国の回答者の平均値を用いた計算にもとづいている。この結果から、地理、宗教、言語、歴史、イデオロギーなどのさまざまな要因が複合的に介在することによって、これらの国々に複数のクラスターが形成されることになったと考えられるのである。

さて、これらの図は、何度か改訂されてきたものであるが、それがはじめて発表されたのは1993年のスペイン・マドリードでの国際会議においてであった。そのため、すでに日本でも、二三の専門雑誌で、それが紹介されている(たとえば、電通総研『Human Studies』第15号、1995年、p. 15)。しかし、それにもかかわらず、これらの図がどのような手順で作成されたかについては、その Scale や Index の構成の仕方を含めて、未だ必ずしも明確になっているとはいえない。このように、Inglehart の命題については、従来の「脱物質主義的価値観」の場合も、最近の「Well-being」の場合も、明らかにそれらの命題が導かれることになったデータ・セットの紹介も、さらにデータ解析の解説もなされないままで、まさに「方法から離れた命題の一人歩き」が進んでいるといわざるを得ないのである。

つぎに後者については、ここで方法という場合、いうまでもなく、そこには、①社会現象の観察の方法——ここでは世論(あるいは質問紙)調査という観察の方法——、②観察にもとづいて収集されたデータの解析の方法(Index や Scale の構成の方法も含めて)、という二つの側面が含まれる。そして、この二つの側面における方法の検討と開発のためには、何よりも「調査データの公開」ということが必要になってくる。この点については、日本の現状にくらべて、アメリカのそれ

の方に一日の長があることを認めざるを得ないのであり、Inglehartの「世界価値観調査データ」もすでにミシガン大学のICPSR (Inter-University Consortium for Political and Social Research) に登録・保管されている。ICPSRはミシガン大学ISR/CPSとアメリカ内外の諸大学に間におけるデータ・ライブラリーの共同利用とデータ解析法に関する情報の交換をその主要な活動内容としている。日本でも、北海道大学、筑波大学、慶應義塾大学、神戸大学、同志社大学などが正式メン

バーとして参加しており、したがってこれらの大学ではすでに「世界価値観調査データ」の利用が可能となっているのである——われわれの場合は、Inglehartとの共同研究という形で、直接に「調査データ」が提供されたことを付記しておきたい——。ところが、それにもかかわらず、「世界価値観調査データ」については、後述するようにさまざまな問題点があり、raw dataを入手したからといって、すぐにその二次的分析が可能になるというものではない。しかし、すでに述べたよ

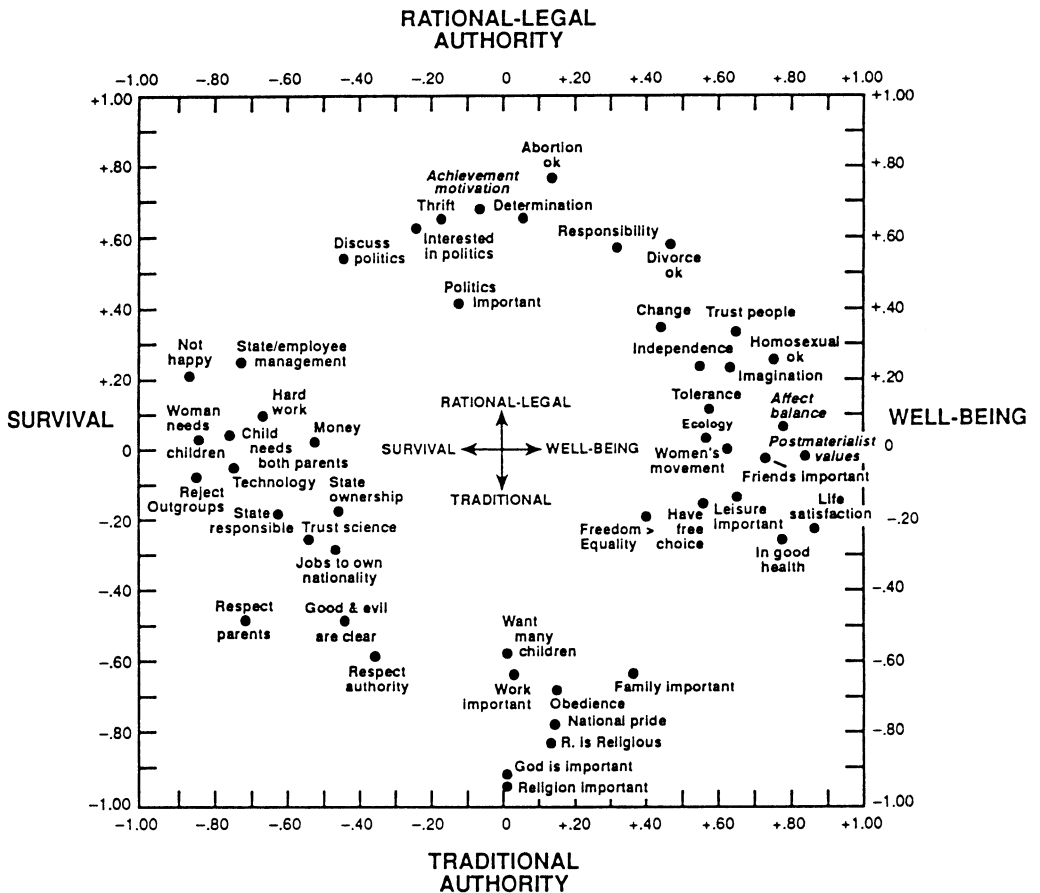


図1 43か国の調査データの因子分析の結果

Source : 1990-1991 World Values survey. This figure shows the first and second principal components emerging from a factor analysis of data from representative national surveys of 40 societies, aggregated to the national level. The scales on the margins show each item's loadings on the two respective dimensions. The items in italics multi-item indices.

うに、社会科学のすべての領域にまたがる共通財産ともいべき「世界価値観調査データ」はできるだけ多くの研究者によって利用されるべきものである。われわれの今回の共同作業は、まさにそのようなデータ利用を可能にするための環境整備の第一歩にはかならないのである。  
(真鍋 一史)

## II データ整理の手続き

世界価値観調査（以下、WVS と略す）に関して、R. Inglehart 教授より得られたのは、

1. 43か国のローデータ (raw data)
2. カナダ用の SPSS データ解析プログラム
3. コードブック (“The World Values Surveys, 1981-1984 and 1990-1993”, World Values Survey Association)
4. 各国調査票であった。

「世界価値観調査データ」を二次利用するため

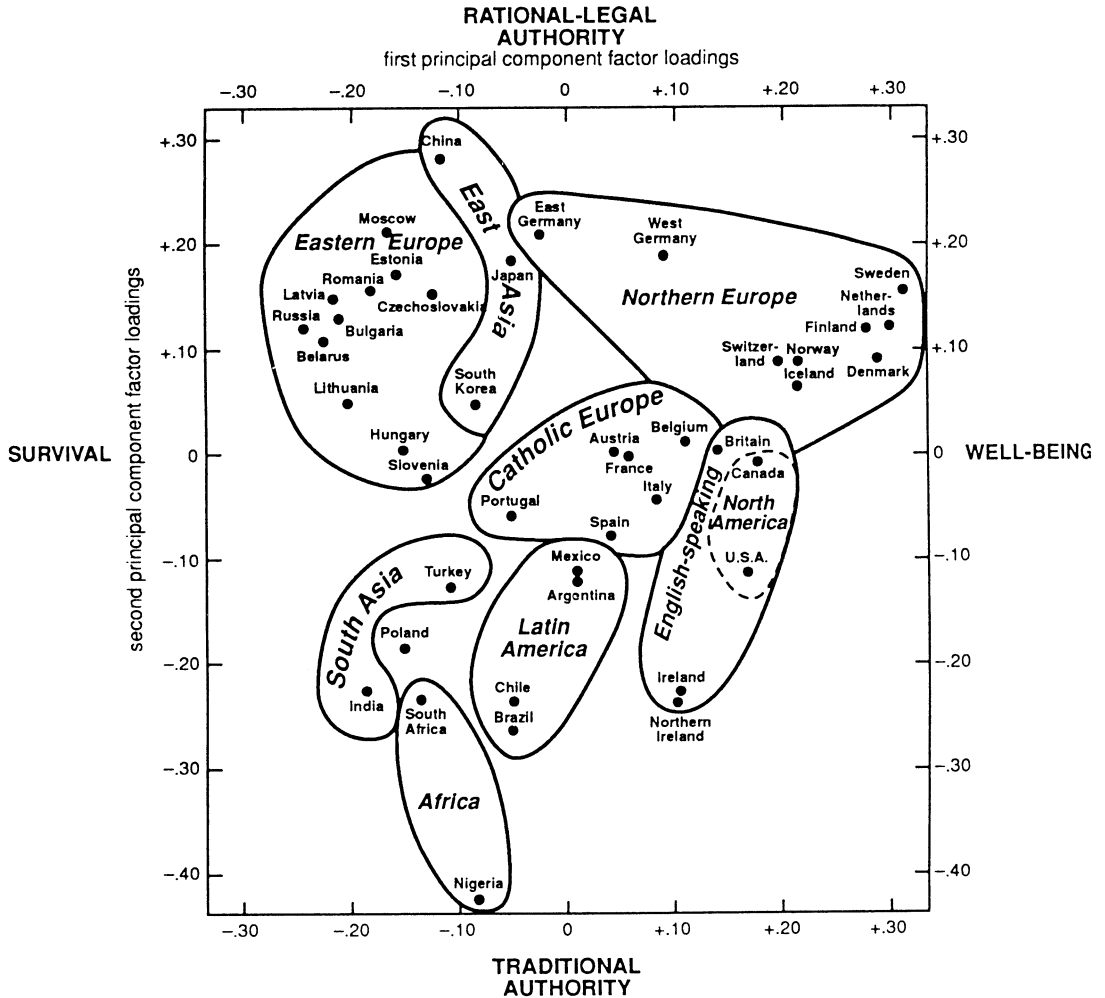


図2 二つの次元（軸）における各国の位置

Source : 1990-1991 World Values survey. Positions are based on the mean scores of the publics of the given nation on each of the two dimensions.

には、上の4種類の資料をもとにして、各国版のデータ解析プログラムを作成する必要がある。この調査データの二次的分析ではSPSSによってデータ解析のプログラムを作成することにする。これは、SPSSが比較的歴史のある統計解析パッケージであり、そのため後発のデータ解析パッケージに比べて、作成された解析プログラムの世界各国での共有可能性が高いと考えるからである。

WVSは国際比較を目的に行われたもので、共通の質問項目・回答の選択肢が用意されているはずである。しかしながら、実際には、各国で個別の調査票が作成されており、質問項目・回答の選択肢の過不足、項目の順序の不統一といった問題が生じているのである。

これについては以下の理由が考えられる。

#### 1. 国家体制や文化の違いによって共通の質問項目を設定することが困難な場合

中国における「政党支持の項目」や日本における「民族意識の項目」などはその例である。

#### 2. 国によって、明らかに回答の選択肢が異なる質問の場合

「政党」や「民族」は各国で異なるために、データ解析プログラム（たとえばSPSSプログラムのValue Labels）もそれに応じて用意しなければならない。

#### 3. 実施機関（あるいはデータ入力機関）が異なるために生じるミスコーディング

WVSの実施機関（あるいはデータ入力機関）が各国調査で異なり、共通理解がなされていないためか、コーディングがさまざまになされている。例として欠損値の問題をあげることができる。

以上のような問題点は、コードブックを作成することによって、特別の質問項目、選択肢（Nation Specific Codes）を区別することが可能なのであるが、WVSにおいて用意されているコードブックは、それらをすべて網羅しているわけではなく、いくつかの点が欠落している。したがって、コードブックからだけでは、それらが特別のものなのかどうか判断できないのである。

また、カナダ用のSPSSプログラムが提供され

ているが、それはカナダにおいて最も多くの質問項目が設定されていることによるものと考えられる。しかしながら、上記の理由によって、カナダ用のSPSSプログラムだけではすべての国のデータを解析するには不十分であるといわなければならない。

そこで、データの二次的分析のためのプログラムを作成するためには以下の手順をとらなければならないであろう。

まず各国版のSPSSプログラムを作成しなければならない。国別にデータ解析プログラムを作成するためには、以下の項目を明らかにする必要がある。

- ① 各国の各々の質問項目の有無
- ② 特別な変数（質問項目）
- ③ 特別な変数値（回答の選択肢）
- ④ 欠損値

以上を整理するためには、つぎのような作業の手順が必要となる。

1. 各国版調査票・質問項目のチェック  
↓
2. 特別コード(Nation Specific Codes)のチェック  
↓
3. 欠損値のチェック  
↓
4. 上述の①～④をまとめた対応表の作成  
問題点（過不足、順序、対訳など）、不明点のチェック  
↓
5. 各国版のデータ解析プログラムの作成

具体的な作業として、以下の手順が必要となる。

1. アメリカ調査の調査票を基準にして、各国で使用された調査票から質問項目の有無、過不足をチェックする。

具体的には、

- a) まずコードブックの変数番号と各国版の調査

票の質問項目との対応表を作成する。

b) つぎに、各国版調査票の質問項目の前に変数番号を付ける。

2. コードブックより、各国の特別コード (Nation Specific Codes) をチェックする。コードブックでは特に区別がなされていないが、特別コードは特別変数 (Nation Specific Variables) と特別変数値 (Nation Specific Values) が区別できるので注意する。

具体的には、

a) コードブックに記載されている各国の特別コードを蛍光ペンなどでチェックする。

b) チェックした箇所を変数と変数値とに区別し、変数番号・質問項目との対応表の特記事項欄に日本\*、中国△、韓国□を付けた番号を記入し、その内容を別に記す。

c) コードブックに記載されていない点、不明な点などがあれば、特記事項欄に各国ごとに記号を付けた番号を記入し、その内容を別に記す。

3. コードブックと単純集計表から欠損値を抜き出す。

具体的には、

a) コードブックから、欠損値が記載されている箇所を蛍光ペンなどでチェックする

b) カナダ用 SPSS プログラムを用いて出力した単純集計表から欠損値と考えられるコードを蛍光ペンなどでチェックする。

c) 変数番号・質問項目・特別コードの対応表に欠損値を記入する。

4. 以上の対応関係から、問題点 (過不足、順序、対訳など)、不明点があれば、変数、変数値に区別して特記事項欄に記号と数字で表現し、その内容を別に記す。

5. 以上の作業をもとにして、各国版のデータ解析プログラムを作成する。

具体的には、

a) カナダ版 (row.log) を各国版に修正する。

b) 国際比較のために、プログラムで使用する言語は英語とする。

c) 同時に、可能な限り、各国の言語でもプログラムを作成する。

ただ、WVS の本来の目的は国際比較にある。用意されているカナダ用 SPSS プログラムではすべての国を分析することはできないが、各国版の SPSS プログラムを作成するという一方で、全世界を一度に分析することが可能な「統合的」な SPSS プログラムを整備するという方向も考えておかなければならないであろう。

(栗田 真樹)

### III 日本調査における問題点——アメリカ調査と日本調査の比較から

アメリカ調査と日本調査については以下の相違点が見られる。

(1) アメリカ版調査票にはあるが日本版調査票にはないもの

変数 V285~V289 と V350 の二か所で欠落が見られる。V285 は「政治制度についてどの程度信頼するか」というものであり、V286、V287 は「自国の誇りとするものは次のうちどれか」として、「科学的業績」「政治制度」「スポーツ成績」「文化と芸術」「経済業績」「保健・福祉制度」があげられている。V288 は「自国はすべての国民の利益のために動いているのか、それとも少数の利害関係者の利益のために動いているのか」を問うものである。V289 は「政府が正しいことをしていると思うか」で、その程度を問うものである。これらの設問は「国民の政府に対する信頼度」を見るものであり、日本版ではなぜ省かれたのか疑問の残るところである。V350 は「自分の属する人種」を答えるもので、アメリカ調査には「ヒスパニック系」「黒人」「白人」「アジア系」「その他」の回答カテゴリーがあるが、日本では民族性が薄いので省略されていると考えられる。

(2) 変更された変数

宗教に関するものがあげられる。アメリカ調査での“church”は日本調査では「教会・寺院・神社など宗教に関する活動行事すべてを含めたもの」を指す。

(3) 変更された変数値

まず、回答形式の異なるものが指摘できる。

V99～V114、V118～V124は、アメリカ調査では「自分の考えに近い」か、「そう思わない」かの二項選択法であるのに対して、日本調査では「いくつでもあげて下さい」という多項選択法になっている。

次に、回答のカテゴリーの順序が逆になっているものがある。これは、比較する際に、単に変数値だけで行なうと誤りが生じることになる。例えば、V127において、仕事上の指示の従い方に関する設問で、アメリカ調査では「2 場合による」「3

上司の指示には確信できない限り従う必要はない」となっているのに対し、日本調査では「2 上司の指示には確信できない限り従う必要はない」「3 場合による」となっており、順序が逆である。これは、その他、V128～V131（仕事が少ない場合の対策）、V197（完全な性的自由の機会をもつべきか）、V217（未婚の母を認めるべきか）、V247（自由と平等のどちらが大切か）、V264～V270（生活様式の変化）などの箇所でも見うけられる。

また、回答の選択肢に異なる意味が付加されているものがある。これは V69～V82で、隣の人としてつきあいたくない人が列挙されており、アメリカ調査では「そうとは思わない」の項に、日本調査では「わからない」が付加されている。

\*10は、回答カテゴリーの表記上1～10段階で中間値を明確にするため日本調査では5と6の間に・・・を挿入している。その他、政党、収入、都市規模、地域については、Nation Specific Codesが付されている。

#### (4) 翻訳の問題

アメリカ調査での“secretaries”やV359、V362の職業区分などの職種に関する訳では、日本における意味を明確にするため具体的職種が明示されたり、補足的説明が加えられたりしている。

#### <特記事項>

( ) 内に (p.\*\* ) のかたちで表記しているものは、R. Inglehart のコードブックで言及されている箇所である（以下、各国調査同様）。

\* 1 アメリカ調査：two secretaries, \$50, currency a week

- 日本調査：二人の女性秘書、2万円、月給
- \* 2 アメリカ調査：church  
日本調査：教会、寺院、神社、宗教団体
  - \* 3 在日韓国人、朝鮮人 (p. 44)
  - \* 4 在日華僑 (p. 45)
  - \* 5 韓国人 (p. 45)
  - \* 6 中国人 (p. 45)
  - \* 7 アメリカ人 (p. 46)
  - \* 8 ロシア人 (p. 46)
  - \* 9 アメリカ調査 “2 Not Mentioned”  
日本調査 「2 そうとは思わない」の項に「わからない」を追加
  - \* 10 回答のカテゴリー5と6の間に・・・を入れる
  - \* 11 アメリカ調査 “1 Mentioned” “2 Not Mentioned” のどちらかを答える  
日本調査 「重要と思うもの」をいくつでも選択する多項選択法
  - \* 12 アメリカ調査 “2 Neither” “3 Disagree”  
日本調査 「2 反対」「3 どちらでもない」
  - \* 13 日本調査では “3 Don't know (in some countries)” を削除  
“9 — (in other countries)” を削除
  - \* 14 アメリカ調査 各々の回答欄に目盛りがあり印をつける方式  
日本調査 1～10の目盛りの番号を記入する方式
  - \* 15 「3 日本」「4 アジア」
  - \* 16 アメリカ調査 “6 Don't know”  
日本調査 「9 わからない」
  - \* 17 「2 アメリカ」「3 カナダ」
  - \* 18 「自民党」「社会党」「公明党」「民社党」「共産党」  
「社会民主連合」「革新自由連合」「連合」「諸派・その他の政党」 (p. 52)
  - \* 19 日本調査では回答のカテゴリーとして「自由業、医師、大学教授、芸術家」を追加
  - \* 20 日本調査ではアメリカ調査の “3 Equal wage earner (同等の稼ぎ手)” を削除
  - \* 21 年収 「1 200万円未満」「2 200～300万円未満」  
「3 300～400万円未満」「4 400～500万円未満」  
「5 500～600万円未満」「6 600～700万円未満」  
「7 700～800万円未満」「8 800～900万円未満」  
「9 900～1,000万円未満」「10 1,000万円以上」 (p. 67)
  - \* 22 都市規模 「1 12大都市」「2 15万以上都市」  
「3 5万以上15万未満都市」「4 5万未満都市」  
「5 郡部(町村)」 (p. 74)
  - \* 23 「1 コーカサス人」「2 ニグロ人」日本調査ではアメリカ調査の “9 N. A.” を削除
  - \* 24 地域「1 北海道・東北」「2 関東」「3 中部・北陸」  
「4 近畿」「5 中国・四国・九州・沖縄」 (p.

81)

(加藤 敬子)

## IV 中国調査における問題点

### 1. サンプリング

今回の調査では多段抽出法 (muliti-stage sampling) を採用している。まず経済発展水準によって、全国を3つに分類 (層化) し、次に各層から無作為にいくつかの省を抽出し、各省に20の調査地点を割り当て、最後に各地点ごとに5人のサンプル抽出を行っている。

中国の経済ブロックの区分については、統一的な基準はないが、東部、中部、西部という区分は、層化の枠組みとして利用されることが比較的多い (そのほかに、沿海地区、内陸地区、少数民族地区、貧困地区などの区分がある)。経済の発展水準は東部がもっとも高く、次いで中部で、西部はもっとも立ち後れている。

今回の調査は10の省と市で行われた。そのうち、東部に属するのは、北京市 (101人)、上海 (100人)、遼寧省 (100人)、江蘇省 (100人)、福建省 (99人) の5つの省・市あわせて500人。中部は吉林省 (99人)、湖北省 (100人)、山西省 (99人) の3つの省、298人。西部は貴州省 (69人) と新疆ウイグル自治区 (61人) の2か所、130人。その他は3人である。1,000人の調査対象のなかで、東部の調査対象が半分を占める。

今回の調査は主に都市部で行われ、都市住民が90%を占めており、残りは郊外の農村地域の住民である。

調査対象の構成から見ると、性別について、男は59.9%、女は39.9%、無回答は0.2%である。職業の構成は、専門技術者9.0%、教師6.4%、政府・団体・企業の役員9.8%、事務職8.5%、商業・サービス業従事者10.8%、農林牧漁業20.2%、労働職22.8%、軍人2.0%、その他9.7%、無回答0.7%である。

### 2. 中国調査票における問題点

#### (1) 欠落している変数

欠落している変数が全部で48、その大半は政治問題と宗教問題に関する質問である。政治問題に

関する質問は、V242-246 (異議申し立て運動へ対する参加)、V289 (政府に対する信頼度)、V317 (政治家の暗殺)、V71 (左翼の過激派)、V73 (右翼の過激派)、V248 (保守革新など政治の立場)、V351-352 (選挙があるとしたら、投票する政党)、V335-339 (政府と経済に関する意見) など全部で17である。

落ちている宗教関連の変数の数は28である (V76、V81、V82、V138、V140、V152-174)。

欠落している変数は以上のほかに、DK (V124、V196)、属性に関連する質問 (V357、両親と一緒に暮らす) がある。

#### (2) 変更された変数

アメリカ調査のV135の「神が存在するからこそ人生には意味がある」は、中国調査票では「人生の意味は人類に役立つことにある」に変更されている。

#### (3) 翻訳の問題

翻訳の問題について、まずあげられるのは誤訳の問題である。アメリカ調査票でのV22「Trade unions」は中国調査票で「貿易組織」に訳され、V303の「lying in your own interest」(自分の利益のためにうそをつく) は「利息に頼って暮らす」に訳されている。次は直訳で意味がわかりにくいという問題である。V280の「Civil service」(行政) は中国調査票で「民用服務」と翻訳されている。もっとも多い問題は、微妙な意味の差の問題である。たとえば、アメリカ調査票でのV18の「happy」は「幸せ」という意味で使われているが、中国調査票で「高興」(楽しい) と訳されている。

### 3. 中国における国際比較調査の問題点

政治制度、社会事情、風俗習慣などの違いによって、一部の質問項目が実施できないことは、中国で国際比較調査を実施するときの最大の問題である。「世界価値観調査」の場合、調査不能の項目の中で、政治と宗教に関するものがもっとも多い。

中国で政治意識関連の調査を行うとき、政治的な制限という要素を考慮しなければならない。中国では、憲法が言論の自由を保障しているが、実際には、「四つの原則」(社会主義の道、人民民主



独裁、共産党の指導、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想の四つを堅持すること）によってそれが大きく制限されている。

「世界価値観調査」の中国調査票の政治関連の質問のなかで、V242-246の異議申し立て運動へ参加（請願書・陳情書への署名、不買運動、合法的なデモ、認められていないストライキ、建物や工場の占拠）という項目を落としたことは、調査が実施された時点（天安門事件翌年）のセンシティブな政治環境を考慮したためと思われる。

しかし、落とされている政治関連の質問項目の中で、政治的配慮ではなく、政治社会状況の違いによる、調査不能の項目も少なくない。V351-352の「選挙があるとしたら、投票する政党」という質問が、西側と違う選挙制度をもつ中国で実施されても意味はないと思われる。そして、V248の「政治の立場を明らかにするに当たって、世間ではよく『左』とか『右』とかいいますが、あなたはいかがですか」という質問に関しては、欧米でいう「左」と「右」の意味は中国と違っている。これも調査不能の一つの原因と考えられる。そのほかに、V71の「左翼の過激派」とV73の「右翼の過激派」などのような中国で存在しない事柄に関する質問も落とされている。

政治関連の調査項目の扱いは、調査の実施機関および調査が実施されるとき政治情勢によって大きく違ってくる。V335-339の政府と経済に関する意見「A）わが国の経済の仕組みは根本的に変える必要がある、B）わが国の政府はもっと開かれたものにすべきだ、C）個人の自由を多くすればするほど、経済は健全になる、D）政府が不当な法律を通過させたとしても、それに対して自分は何もできない、E）わが国の政治改革はあまりにも急ぎすぎる」という項目は、「世界価値観調査」で落とされているが、(株)原子力安全システム研究所社会システム研究所が1993年に実施した「中国における価値観の変化と科学技術に関する調査」では、これと同じような質問が使われている。

「世界価値観調査」の中で落とされている宗教に関する項目は政治関連の項目より多い。中国で、宗教を信仰する人は1割強しかいない。質問票のなかの宗教に関連する質問は、多くの人にとってなじみがないものである。そして、宗教の

違いによって、「神」といっても中国と欧米ではその内容がまったく異なっている。国際比較研究において、宗教関連の調査項目の扱いは、今後に残された重要な課題の一つといえる。

翻訳による誤差を最小限に食い止めることは、国際比較研究を成功させる前提条件の一つである。しかし、今回の中国語の調査票の中では、翻訳の問題が多く残されている。誤訳より用語の不適切さや、微妙なニュアンスが伝えられていないなどの問題が多い。その主な原因は翻訳者の言語力より、翻訳の仕方の問題およびチェック機能の欠如によるところが大きいと思われる。以上の問題を克服するため、複数翻訳（外国にいる中国人と中国にいる中国人の両方に翻訳してもらう）あるいは対訳（両国語に精通した中国人と外国人に調査票を対訳させる）、グループ討議など、翻訳の仕方をもっと工夫する必要があると思われる。

#### <特記事項>

- △1 V135 人生の意味は人類に役立つことにある
- △2 V341 中国人一般
- △3 V342 壮族
- △4 V343 回族
- △5 V344 日本人
- △6 V345 ソ連人
- △7 V346 米国人
- △8 V347 英国人
- △9 V320 3 中国 4 アジア
- △10 V321 3 中国 4 アジア
- △11 V348 3 香港・マカオ 4 アジア
- △12 V350 (pp. 47-48)
  - 01 漢族
  - 02 壮族
  - 03 回族
  - 04 ウイグル族
  - 05 苗族
  - 06 わたしはまず中国人で、民族所属はその次である
- △13 V359 (p. 64)
  - 01 専門技術者
  - 02 教師
  - 03 政府・団体・企業の役員
  - 04 事務職
  - 05 商業・サービス業従事者
  - 06 農林牧漁業
  - 07 労働職
  - 08 軍人

- 09 その他
- △14 V363 (p. 70)
  - 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
  - C D E F G H I J K L
- △15 V368 9 農村
- △16 V369 (p. 77)
  - 01 漢族
  - 02 壮族
  - 03 回族
  - 04 ウイグル族
  - 05 苗族
  - 06 満族
  - 07 その他
- △17 V370 (p. 85)
  - 01 北京
  - 06 遼寧
  - 07 吉林
  - 09 上海
  - 10 江蘇
  - 13 福建
  - 14 江西
  - 17 湖北
  - 23 貴州
  - 26 山西
  - 30 新疆

(劉志明)

### V 韓国調査における問題点

世界価値観調査データの二次的分析を行うにあたって、調査対象国の一つである韓国の質問紙における問題点を以下の順で述べていく。その前に、二点だけことわっておきたい。一つは韓国でなされた質問紙調査の調査票はすべて韓国語なので、ここで報告する内容はすべて李が韓国語を日本語に翻訳したものである。もう一つは米国との比較においては調査票ではなくてコードブックの方を参考にしたということである。

#### (1) 変数の欠落に関する問題点

韓国の調査票では全部で223個の変数(質問項目)が用いられており、欠落した変数の数は138個にのぼる。下のように他国(ここでは、日本、中国)と比較して相対的に変数の数が少ない。

国名	調査票において欠落している変数の数
日本	4個 (V4-V375)

中国	48個 (V4-V375)
韓国	138個 (V4-V375)

そのため、交差国家的な比較をする際、韓国の場合は他国と比較できる変数の数が相対的に少ないという問題点が指摘できる。

#### (2) 変数に関する問題点

韓国の調査票における変数に関する問題点として、変数全体にかかわる問題点というより、個別の変数に関するものとして二つの例を取り上げる。

##### ①v33の例

韓国：医療および心身鍛練団体

日本：保健衛生のためのボランティア組織

米国：voluntary organisations concerned with health. (調査票まま)

上のように、日本と米国の調査票においてはほとんど同義の変数といえるが、韓国の場合は、二か国と比べて変数の示す意味内容が異なっていると指摘できる。さらに、これは(4)の翻訳の問題点とも関わる。

##### ②v282(社会保障制度)の例

日本と米国の調査票ではV282はV272からV281の変数群に属しており、信頼度(Trust)をはかる回答スケールに対応しているのに対して、韓国の調査票ではV282がV290からV295の変数群に属しており、支持度(Approve)をはかる回答スケールに対応している。そのため、この変数については交差国家的比較が難しくなる点が指摘できる。これらの変数が他の質問項目(変数群)のところに入れられた原因として2つのことが考えられる。第一に韓国の調査者(研究者)の意図による変更可能性と、第二に何らかのミスにより違うところへ入れられてしまった可能性である。

#### (3) 変数値に関する問題点

韓国の調査票における変数値(個別の変数値)に関する問題点として三つがあげられる。

第一にV296からV319の変数に対する回答スケール(変数値)が、米国や日本の調査票では1から10までの10段階スケールになっているのに対して、韓国の場合には「全く正当化されない、中立、

正当化される」の3段階になっている。

第二に V142の変数値の配列順番が米国の「1、2、3」に対して「1、3、2」と順番が入れかわっている。

第三に V181に対する回答カテゴリー（変数値）のなかの一つ（5. 未婚）が他国（ここでは日本、米国）とは違うもの（変数値）になっている。

#### V181の例

	韓国	日本	米国
1	結婚した	結婚している	Married
2	離婚	事実上の結婚生活を 送っている	Living as married
3	別居	離婚	Divorced
4	未亡人	別居	Separated
5	未婚	死別	Widowed

以上の点の変数値に関する問題点として指摘できる。

#### (4) 翻訳の問題点

翻訳に関する問題点として大きく二つのことが考えられる。

##### ①変数および質問文の表現の誤訳

韓国の調査票では見つからなかった。

②変数および質問文の表現の相違の問題点（必ずしも、誤訳とは限らない。その国、地域においては一般的に使われている言葉、表現の使用可能性の問題点と言えるかもしれない。）

これに関しては、特記事項で詳細に記述してあるのでそれを参照されたい。ここではいくつかの具体的な例を提示することにした。

#### V129の例

韓国：求職難の時、歳をとった人は早期退職すべきだ

日本：仕事が少ない場合、人々に早期退職を強制すべきだ

米国：When jobs are scarce, people should be forced to retire early.

#### V235の例

韓国：博愛精神

日本：公正さ

米国：Unselfishness

#### V295の例

韓国：人種差別撤廃運動

日本：反アパルヘイト運動

米国：Anti-apartheid movement

#### (5) その他

その他の問題点としては、質問項目の位置（質問の順番）が異なっている点があげられる。

#### <特記事項>

- 1 質問項目の位置が異なっている
- 2 韓国：公害問題解決のため次のような主張についてどう思うか意見を示してください。  
日本：これから環境問題についていくつか意見を読み上げます。  
米国：I am now going to read out some about the environment.
- 3 韓国：人権団体  
日本：途上国開発や人権  
米国：The third world development or Human right
- 4 韓国：専門職業に関連する学会  
日本：同業者団体、職業団体  
米国：professional associations
- 5 質問項目の位置と訳  
韓国：医療及び心身鍛練団体  
日本：保健衛生のためのボランティア組織  
米国：Voluntary organisations concerned with health（調査票まま）
- 6 韓国：外国人、外国人労働者  
日本：移民、外国人労働者  
米国：Immigrants/Foreign Workers
- 7 韓国：公休日によく休む職業  
日本：好ましい休暇制度  
米国：Generous holidays
- 8 韓国：ある会社に二人の女社員がいますが、同い年で同じ仕事をしていると仮定します。  
日本：二人の女性秘書がいるとします。  
米国：Imagine two secretaries, of the same age, doing parctically the same job.
- 9 韓国：求職難の時、歳をとった人は早期退職すべきだ  
日本：仕事が少ない場合、人々に早期退職を強制すべきだ  
米国：When jobs are scarce, people should be forced to retire early
- 10 韓国：求職難の時、移民より本国人を優先すべきだ  
日本：仕事が少ない場合、雇用者は外国人労働者

- よりも日本人を優先すべきだ  
 米国：When jobs are scarce, employers should give priority to British countries other than U. K.: please substitute your nationality people over immigrants.
- 11 韓国：信頼  
 日本：夫や妻に忠実であること  
 米国：Faithfulness
- 12 韓国：同じ宗教  
 日本：同じ信仰をもっていること  
 米国：Shared religious beliefs
- 13 韓国：政治に対する似通う意見  
 日本：政治に対する見方が一致していること  
 米国：Agreement on politics
- 14 韓国：独立心  
 日本：自主性  
 米国：Independence
- 15 韓国：博愛精神  
 日本：公正さ  
 米国：Unselfishness
- 16 韓国：示威に参与  
 日本：合法的なデモ  
 米国：Attending lawful demonstrations
- 17 質問項目の位置
- 18 韓国：教会  
 日本：宗教団体  
 米国：The church
- 19 別の質問項目に入っている
- 20 韓国：人種差別撤廃運動  
 日本：反アパルヘイト運動  
 米国：Anti-apartheid movement
- 21 質問項目の位置が異なっている
- 22 ドイツ人 (p. 44)
- 22 中国人 (p. 45)
- 22 フランス人 (p. 45)
- 22 日本人 (p. 45)
- 22 ソ連人 (p. 46)
- 22 米国人 (p. 46)
- 23 教育を終えた年齢 (p. 62)
- 24 質問項目の位置
- 25 回答の順番が異なっている (1、3、2)
- 26 回答の順番が異なっている (1、3、2→1、2、3)
- 27 回答のカテゴリー数が一つ多い (p. 41)
- 1 カトリック
  - 2 プロテスタント
  - 3 仏教
  - 4 儒教
  - 5 無神論
  - 6 その他
- 28 韓国：1 結婚した、2 離婚、3 別居、4 未亡人、

5 未婚

日本：1 結婚している、2 事実上の結婚生活を送っている、3 離婚、4 別居、5 死別

米国：1 Married 2 Living as married  
 3 Divorced 4 Separated 5 Widowed

- 29 回答スケールの違い (10段階のスケールが、「全然正当化されない」「中立」「常に正当化される」の3段階になっている)
- 30 家計の主たる所得者の職業が自由回答方式になっている
- 31 世帯の所得 (p. 68)
- 32 都市規模 (p. 74)
- 33 地域 (p. 82)
- 34 学歴 (p. 89)

(李 鍾煥)

<付記>

今回の共同作業には、執筆者のほかに足立重和 (大学院研究員)、仲野誠 (大学院後期課程)、日高美穂 (神戸大学大学院国際協力研究科前期課程) が参加している。また、この共同作業が、日本リサーチセンター、日経リサーチ、原子力安全システム研究所からの研究助成にもとづいていることを記し、心から感謝の意を表したい。

表 「世界価値観調査データ」の二次的分析のための準備作業・三か国（日本・中国・韓国）対応表

<表の見方>

1. VAR は調査で用いられた質問項目、V1-V365 を示している。  
VARIABLE LABELS はカナダで用いられたものである。  
各国ごとに、Nation Specific Variables, Nation Specific Values (N. S. Values と表記)、Missing Values を示している。
2. Nation Specific Variables は問（各国調査票の質問項目番号）、有無（質問項目が設定されていれば○、設定されていなければ空欄）、特記事項（日本\*、中国△、韓国□に数字を付しその詳細を本文各国の <特記事項> で示している）を示している。
3. Nation Specific Values は、Nation Specific Variables の特記事項と同様の形式で表記している。
4. Missing Values は、各国で用いられた欠損値の値を示している。

VAR.	VARIABLE LABELS(Canada)	国コード 13 日本				国コード 39 中国				国コード 24 韓国			
		NATION SPECIFIC VARIABLES 問	N. S. VALUES 有無	MISSING 特記事項	VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES 問	N. S. VALUES 有無	MISSING 特記事項	VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES 問	N. S. VALUES 有無	MISSING 特記事項	VALUES
v1	Study number												
v2	Country												
v3	Interview number												
v4	Work important	問1a)	○		9	118-121 A)	○			1-3	○		0
v5	Family important	問1b)	○		9	B)	○		0 9	1-3	○		0
v6	Friends important	問1c)	○		9	C)	○			1-3	○		0
v7	Leisure important	問1d)	○		9	D)	○			1-3	○		0
v8	Politics important	問1e)	○		9	E)	○			1-3	○		0
v9	Realization important	問1f)	○		9	F)	○			1-3	○		0
v10	Discuss politics	問2	○		9	122	○		9	60a	○	□1	0
v11	Persuade friends	問3	○		9	123	○		9		○	□2	0
v12	Environment: Income	問4a)	○		9	124-129 A)	○		9	4	○	□2	0
v13	Environment: Taxes	問4b)	○		9	B)	○		9	4	○	□2	0
v14	Environment: No Cost	問4c)	○		9	C)	○		9	4	○	□2	0
v15	Environment: Anxious	問4d)	○		9	D)	○		0 9	4	○	□2	0
v16	Environment: Unemployment	問4e)	○		9	E)	○		0 9	4	○	□2	0
v17	Environment: Not Urgent	問4f)	○		9	F)	○		0 9	4	○	□2	0
v18	Is R Happy	問5	○		9	130	○		0 9	5	○		0, 9
v19	Social Welfare	問6a)	○			131-148 A)	○			6-2)	○		
v20	Religious Organization	問6b)	○			B)	○			6-3)	○		
v21	Education/Cultural	問6c)	○			C)	○			6-4)	○		
v22	Trade Unions	問6d)	○			D)	○			6-5)	○		
v23	Political Parties	問6e)	○			E)	○			6-6)	○		
v24	Community Action	問6f)	○			F)	○			6-7)	○		
v25	Third World Development	問6g)	○			G)	○			6-8)	○	□3	
v26	Environment	問6h)	○			H)	○			6-9)	○		
v27	Professional Assoc.	問6i)	○			I)	○			6-10)	○	□4	
v28	Youth Work	問6j)	○			J)	○			6-11)	○		
v29	Sports/Recreation	問6k)	○			K)	○			6-12)	○		
v30	Womens Groups	問6l)	○			L)	○			6-13)	○		
v31	Peace Movement	問6m)	○			M)	○			6-14)	○		
v32	Animal Rights	問6n)	○			N)	○			6-15)	○		
v33	Health/Voluntary	問6o)	○			O)	○			6-1)	○	□5	
v34	Other groups	問6p)	○			P)	○			6-16)	○		
v35	Activities-None	問6何もない)					○						
v36	Activities-DK	問6わからない)			9		○						
v37	Social Welfare	問6A)	○			149-166 A)	○			6-2)	○		
v38	Religious Organization	問6B)	○			B)	○			6-3)	○		
v39	Education/Cultural	問6C)	○			C)	○			6-4)	○		
v40	Trade Unions	問6D)	○			D)	○			6-5)	○		
v41	Political Parties	問6E)	○			E)	○			6-6)	○		
v42	Community Action	問6F)	○			F)	○			6-7)	○		
v43	Third World Development	問6G)	○			G)	○			6-8)	○		
v44	Environment	問6H)	○			H)	○			6-9)	○		
v45	Professional Assoc.	問6I)	○			I)	○			6-10)	○		
v46	Youth Work	問6J)	○			J)	○			6-11)	○		
v47	Sports/Recreation	問6K)	○			K)	○			6-12)	○		
v48	Womens Groups	問6L)	○			L)	○			6-13)	○		
v49	Peace Movement	問6M)	○			M)	○			6-14)	○		
v50	Animal Rights	問6N)	○			N)	○			6-15)	○		
v51	Health/Voluntary	問6O)	○			O)	○			6-1)	○	□24	
v52	Other groups	問6P)	○			P)	○			6-16)	○		
v53	Activities-None	問6何もない)					○						
v54	Activities-DK	問6わからない)					○						
v55	Solidarity	問7A)	○		0 9	167-180 A)	○		0 9				
v56	Compassion	問7B)	○		0 9	B)	○		0 9				
v57	Opportunity to Give	問7C)	○		0 9	C)	○		0 9				
v58	Sense of Duty	問7D)	○		0 9	D)	○		0 9				
v59	Identify Suffering	問7E)	○		0 9	E)	○		0 9				
v60	Worthwhile to do	問7F)	○		0 9	F)	○		0 9				
v61	Personal Satisfaction	問7G)	○		0 9	G)	○		0 9				
v62	Religious Beliefs	問7H)	○		0 9	H)	○		0 9				
v63	Give Hope/Dignity	問7I)	○		0 9	I)	○		0 9				
v64	Community Contribution	問7J)	○		0 9	J)	○		0 9				
v65	Social/Political Change	問7K)	○		0 9	K)	○		0 9				
v66	Social Reasons	問7L)	○		0 9	L)	○		0 9				
v67	Useful Experience	問7M)	○		0 9	M)	○		0 9				
v68	Could not Refuse	問7N)	○		0 9	N)	○		0 9				
v69	Neighbors: Criminals	問8A)	○	0 9		216-229 A)	○			8-1)	○		
v70	Neighbors: Other Race	問8B)	○	0 9		B)	○			8-2)	○		
v71	Neighbors: Left Wing	問8C)	○	0 9		C)	○			8-3)	○		
v72	Neighbors: Drinkers	問8D)	○	0 9		D)	○			8-4)	○		
v73	Neighbors: Right Wing	問8E)	○	0 9		E)	○			8-5)	○		
v74	Neighbors: LG Family	問8F)	○	0 9		F)	○			8-6)	○		
v75	Neighbors: Unstable	問8G)	○	0 9		G)	○			8-7)	○		
v76	Neighbors: Muslims	問8H)	○	0 9		H)	○			8-8)	○		
v77	Neighbors: Foreigners	問8I)	○	0 9		I)	○			8-9)	○	□6	
v78	Neighbors: AIDS	問8J)	○	0 9		J)	○			8-10)	○		
v79	Neighbors: Addicts	問8K)	○	0 9		K)	○			8-11)	○		
v80	Neighbors: Homosexuals	問8L)	○	0 9		L)	○			8-12)	○		

VAR	VARIABLE LABELS(Canada)	国コード 13 日本			国コード 59 中国			国コード 24 韓国				
		NATION SPECIFIC VARIABLES 問 有無 特記事項	N. S. VALUES 特記事項	MISSING VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES 問 有無 特記事項	N. S. VALUES 特記事項	MISSING VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES 問 有無 特記事項	N. S. VALUES 特記事項	MISSING VALUES		
v81	Neighbors Jealous	問9M	○	*9	0	0						
v82	Neighbors Rindus	問9N	○	*9	0	0						
v83	State of Health	問9	○		0	230	○		0.9			
v84	Feel Excited	問10E	○		0	231-233 A)	○		0.9			
v85	Feel Restless	問10B	○		0	B)	○		0.9			
v86	Feel Proud	問10C	○		0	C)	○		0.9			
v87	Feel Lonely	問10D	○		0	D)	○		0.9			
v88	Feel Pleased	問10E	○		0	E)	○		0.9			
v89	Feel Sure	問10F	○		0	F)	○		0.9			
v90	Feel Top of the World	問10G	○		0	G)	○		0.9			
v91	Feel Depressed	問10H	○		0	H)	○		0.9			
v92	Feel Alone Your Way	問10I	○		0	I)	○		0.9			
v93	Feel Unset	問10J	○		0	J)	○		0.9			
v94	People Trusted	問11	○		0	241	○	12	○			
v95	Free Choice/Control	問12	○	*10	99	242/243	○	0.99	13	○	0.99	
v96	Life Satisfaction	問13	○	*10	99	244/245	○	0.99	14	○	0.99	
v97	Live in Need: 1st Reason	問14(a)	○		9	246 A)	○	0.9	15	○	0.9	
v98	Live in Need: 2nd Reason	問14(b)	○		9	246 B)	○	0.9	15	○	0.9	
v99	Good Pay	問15A)	○	*11		248-263 A)	○		16-1	○		
v100	Pleasant People	問15B)	○	*11		B)	○		16-2	○		
v101	No Pressure	問15C)	○	*11		C)	○		16-3	○		
v102	Job Security	問15D)	○	*11		D)	○		16-4	○		
v103	Promotions	問15E)	○	*11		E)	○		16-5	○		
v104	Job Respected	問15F)	○	*11		F)	○		16-6	○		
v105	Good Hours	問15G)	○	*11		G)	○		16-7	○		
v106	Use Initiative	問15H)	○	*11		H)	○		16-8	○		
v107	Useful to Society	問15I)	○	*11		I)	○		16-9	○		
v108	Generous Holidays	問15J)	○	*11		J)	○		16-10	○	□7	
v109	Meet People	問15K)	○	*11		K)	○		16-11	○		
v110	Achieve Something	問15L)	○	*11		L)	○		16-12	○		
v111	Responsible Job	問15M)	○	*11		M)	○		16-13	○		
v112	Job Interesting	問15N)	○	*11		N)	○		16-14	○		
v113	Meets Abilities	問15O)	○	*11		O)	○		16-15	○		
v114	Important in Job: None	問15/L	○	*11			○		16-16	○		
v115	Pride in Work	問16	○		0.9	265	○	0.9	18	○	0.9	
v116	Job Satisfaction	問17	○	*10	99	266/267	○	0.99	19	○	0.99	
v117	Decision-Making Freedom	問18	○	*10	99	268/269	○	0.99	20	○	0.99	
v118	Why Work: Get Paid	問19-1	○	*11			○					
v119	Why Work: Do Best	問19-2	○	*11			○					
v120	Why Work: Necessity	問19-3	○	*11			○					
v121	Why Work: Enjoyment	問19-4	○	*11			○					
v122	Why Work: Most Important	問19-5	○	*11			○					
v123	Why Work: Never Worked	問19-6	○	*11			○					
v124	Why Work: OK	問19-7	○	*11			○					
v125	Efficient: Paid More	問20	○	*1	0	277	○	0.9	21	○	□8	0.9
v126	Business Managed	問21	○		0	278	○	0.9	23	○	0.9	
v127	Following Instructions	問22	○		0	279	○	0.9	22	○	□25	0
v128	Men: More Right to a Job	問23(a)	○	*12	9	316-319 A)	○	9	24-A	○	0	
v129	Forced Retirement	問23(b)	○	*12	9	B)	○	9	24-B	○	□9	0
v130	Jobs to (Nationality)	問23(c)	○	*12	9	C)	○	9	24-C	○	□10	0
v131	Handicapped: Work Unfair	問23(D)	○	*12	9	D)	○	9	24-D	○	0	
v132	Financial Satisfaction	問24	○	*10	99	320/321	○	99	25	○	0.99	
v133	Think: Meaning of Life	問25	○		0	322	○	9	26A	○		
v134	Think: of Death	問26	○		9	323	○	9				
v135	Life: God Exists	問27A)	○		9	324-330 A)	○	△1				
v136	Life: Get the Best	問27B)	○		9	B)	○	0.9				
v137	Life: Death Inevitable	問27C)	○		9	C)	○	9				
v138	Life: Belief in God	問27D)	○		9	D)	○					
v139	Life: Death a Rest	問27E)	○		9	E)	○	0.9				
v140	Life: Sorrow	問27F)	○		9	F)	○					
v141	Life: No Meaning	問27G)	○		9	G)	○	0.9				
v142	Good & Evil	問28	○	*12	9	331	○	9	29	○	□26	0
v143	Religious: Denomin	問29(a)	○		0	332	○	9				
v144	Which Religion	問29(b)	○		19, 20, 99	333	○	0	30	○	□27	0.9
v145	Ever Member	問29(c)	○		0	334	○	0.9				
v146	Raised Religious	問30	○		9	335	○	0.9				
v147	Attend Services	問31	○		9	336	○	0.9				
v148	Services: Birth	問32A)	○		9	337-339 A)	○	0.9				
v149	Services: Marriage	問32B)	○		9	B)	○	0.9				
v150	Services: Death	問32C)	○		9	C)	○	0.9				
v151	Is R Religious	問33	○	*9	9	340	○	9				
v152	Answers: Moral Problems	問34A)	○	*9	9		○					
v153	Answers: Family Life	問34B)	○	*9	9		○					
v154	Answers: Spiritual Needs	問34C)	○	*9	9		○					
v155	Answers: Social Problems	問34D)	○	*9	9		○					
v156	Speak Out: Disarmament	問35A)	○		9		○					
v157	Speak Out: Abortion	問35B)	○		9		○					
v158	Speak Out: Third World	問35C)	○		9		○					
v159	Speak Out: Affairs	問35D)	○		9		○					
v160	Speak Out: Unemployment	問35E)	○		9		○					
v161	Speak Out: Racial Discrim	問35F)	○		9		○					
v162	Speak Out: Euthanasia	問35G)	○		9		○					
v163	Speak Out: Homosexuality	問35H)	○		9		○					
v164	Speak Out: Ecology	問35I)	○		9		○					
v165	Speak Out: Government	問35J)	○		9		○					
v166	Belief in God	問36A)	○		9		○					
v167	Life after death	問36B)	○		9		○					
v168	Belief in Soul	問36C)	○		9		○					
v169	Belief in Devil	問36D)	○		9		○					
v170	Belief in Hell	問36E)	○		9		○					
v171	Belief in Heaven	問36F)	○		9		○					
v172	Belief in Sin	問36G)	○		9		○					
v173	Resurrection	問36H)	○		9		○					
v174	Re-Incarnation	問36I)	○		9		○					
v175	What is God	問37	○		9	364	○	0.9				
v176	Importance of God	問38	○	*10	99	365/366	○	0.99				
v177	Comfort in Religion	問39	○		9	367	○	0.9				
v178	Prayer/Meditation	問40	○		9	368	○	0.9				
v179	How often Pray	問41	○		9	369	○	0.9				
v180	Home Satisfaction	問42	○	*10	99	370/371	○	0.99	43	○	0.99	
v181	Marital Status	問43	○			172	○		44	○	□28	0

VAR.	VARIABLE LABELS(Canada)	国コード 13 日本			国コード 39 中国			国コード 24 韓国			
		NATION SPECIFIC VARIABLES	N. S. VALUES	MISSING VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES	N. S. VALUES	MISSING VALUES	NATION SPECIFIC VARIABLES	N. S. VALUES	MISSING VALUES	
		問	有無 特記事項	特記事項	問	有無 特記事項	特記事項	問	有無 特記事項	特記事項	VALUES
v182	Married Before	問44			9	373		0			
v183	Partner Religion	問45				374-380					
v184	Partner Moral	問46									
v185	Partner Social	問46									
v186	Partner Politics	問46									
v187	Partner Sex	問46									
v188	Partner None	問46									
v189	Partner DK	問46									
v190	Parents Religion	問46				416-422					
v191	Parents Moral	問46									
v192	Parents Social	問46									
v193	Parents Politics	問46									
v194	Parents Sex	問46									
v195	Parents None	問46									
v196	Parents DK	問46									
v197	Sexual Freedom	問47			0	423		0	0		
v199	Faithfulness	問48A			0	424-436 A)		0	0	45-A	0
v199	Adequate income	問48B			0	B)		0	0	45-B	0
v200	Same Background	問48C			0	C)		0	0	45-C	0
v201	Mutual Respect	問48D			0	D)		0	0	45-D	0
v202	Shared Religion	問48E			0	E)		0	0	45-E	0
v203	Good Housing	問48F			0	F)		0	0	45-F	0
v204	Politics	問48G			0	G)		0	0	45-G	0
v205	Understanding	問48H			0	H)		0	0	45-H	0
v206	Away from in-laws	問48I			0	I)		0	0	45-I	0
v207	Happy Sex Life	問48J			0	J)		0	0	45-J	0
v208	Share HH Chores	問48K			0	K)		0	0		
v209	Children	問48L			0	L)		0	0		
v210	Common Interests	問48M			0	M)		0	0		
v211	How Many Children	問49			0	437		0	0	45-1	0
v212	How Many at Home	問50			0	438		0	0		0
v213	Ideal Number Children	問51			0	439/440		0	0	51	0
v214	Child Need Parents	問52			0	441		0	0		0
v215	Woman Needs Child	問53		*13	0	442		0	0	55	0,3
v216	Marriage Outdated	問54			0	443		0	0		
v217	Woman Single Parent	問55		*12	0	444		0	0		
v218	Working Mother	問56A)			0	445-450 A)		0	0	54-A	0
v219	Child Will Suffer	問56B)			0	B)		0	0	54-B	0
v220	Women Want Home/Child	問56C)			0	C)		0	0	54-C	0
v221	Housewife Fulfilled	問56D)			0	D)		0	0	54-D	0
v222	Way to Independence	問56E)			0	E)		0	0	54-E	0
v223	Both Contribute	問56F)			0	F)		0	0	54-F	0
v224	Respect Parents	問57			0	451		0	0	59	0
v225	Parents Duty	問58		*12	0	452		0	0	58	0
v226	Good Manners	問58A)			0	453-463 A)		0	0	57-1	0
v227	Independence	問58B)			0	B)		0	0	57-2	0
v228	Hard Work	問58C)			0	C)		0	0	57-3	0
v229	Responsibility	問58D)			0	D)		0	0	57-4	0
v230	Imagination	問58E)			0	E)		0	0	57-5	0
v231	Tolerance/Respect	問58F)			0	F)		0	0	57-6	0
v232	Thrift	問58G)			0	G)		0	0	57-7	0
v233	Determination	問58H)			0	H)		0	0	57-8	0
v234	Religious Faith	問591)			0	I)		0	0	57-9	0
v235	Unselfishness	問591)			0	J)		0	0	57-10	0
v236	Obedience	問59A)			0	K)		0	0	57-11	0
v237	Abortion: Mother Health	問60A)			0	465-468 A)		0	0		
v238	Abortion: Handicapped	問60B)			0	B)		0	0		
v239	Abortion: Mother Unmarried	問60C)			0	C)		0	0		
v240	Abortion: No Want Child	問60D)			0	D)		0	0		
v241	Interested Politics	問61			0	471		0	0	60B	0
v242	Sign Petition	問62A)			0			0	0	61-A	0
v243	Join Boycott	問62B)			0			0	0	61-B	0
v244	Lawful Demonstration	問62C)			0			0	0	61-C	0
v245	Unofficial Strikes	問62D)			0			0	0		0
v246	Occupy Building	問62E)			0			0	0		0
v247	Freedom & Equality	問63		*12	0	477		0	0	61-D	0
v248	Left-right Self Placement	問64		*10	0	08, 09		0	0	62	0, 09
v249	Societal Change	問65			0	480		0	0	65	0
v250	Income Equality	問66A)		*10	0	518/517 A)		0	0	64-A	0
v251	Ownership of Business	問66B)		*10	0	518/519 B)		0	0	64-B	0
v252	Responsibility	問66C)		*10	0	520/521 C)		0	0	64-C	0
v253	Unemployed	問66D)		*10	0	522/523 D)		0	0	64-D	0
v254	Competition	問66E)		*10	0	524/525 E)		0	0	64-E	0
v255	Hard Work	問66F)		*10	0	526/527 F)		0	0	64-F	0
v256	Wealth Accumulation	問66G)		*10	0	528/529 G)		0	0	64-G	0
v257	Country Goals(1)-#1	問67a)			0	530		0	0	66-A	0
v258	Country Goals(1)-#2	問67b)			0	531		0	0	66-B	0
v259	Country Goals(2)-#1	問68a)			0	532		0	0	67-A	0
v260	Country Goals(2)-#2	問68b)			0	533		0	0	67-B	0
v261	Country Goals(3)-#1	問69a)			0	534		0	0	68-A	0
v262	Country Goals(3)-#2	問69b)			0	535		0	0	68-B	0
v263	Willing to Fight in War	問70			0	536		0	0	70	0
v264	Less Emphasis on Money	問71A)		*12	0	537/543 A)		0	0	68-A	0
v265	Decrease Work Import	問71B)		*12	0	B)		0	0	68-B	0
v266	Technological Develop	問71C)		*12	0	C)		0	0	68-C	0
v267	Individual Develop	問71D)		*12	0	D)		0	0	68-D	0
v268	Respect Authority	問71E)		*12	0	E)		0	0	68-E	0
v269	Emphasis Family Life	問71F)		*12	0	F)		0	0	68-F	0
v270	Natural Lifestyle	問71G)		*12	0	G)		0	0	68-G	0
v271	Scientific Advances	問72		*12	0	544		0	0	69	0
v272	Confidence: Church	問73A)			0	545-558 A)		0	0	71-A	0
v273	Confidence: Armed Forces	問73B)			0	B)		0	0	71-B	0
v274	Confidence: Education	問73C)			0	C)		0	0	71-C	0
v275	Confidence: Legal Sys	問73D)			0	D)		0	0	71-D	0
v276	Confidence: Press	問73E)			0	E)		0	0	71-E	0
v277	Confidence: Unions	問73F)			0	F)		0	0	71-F	0
v278	Confidence: Police	問73G)			0	G)		0	0	71-G	0
v279	Confidence: Parliament	問73H)			0	H)		0	0	71-H	0
v280	Confidence: Civil Serv	問73I)			0	I)		0	0	71-I	0
v281	Confidence: Companies	問73J)			0	J)		0	0	71-J	0
v282	Confidence: Soc Security	問73K)			0	K)		0	0	72-G	0

